

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 ウィメンズヘルス看護学分野	修了年度	平成 29 年度
氏名	山口 静江	指導教員 (主査)	及川 裕子

論文題目	乳児期の子どもを育てる両親の育児不安と親性及び両親の話し合いとの関連
------	------------------------------------

本文概要

【目的】 乳児期の子どもを育てる両親の親性及び出産前後の両親の話し合いが育児不安にどのように関連しているかを明らかにする

【対象】 乳児期の子どもを育てる両親 125 組

【方法】 育児不安と親性、出産前後の両親の話し合いについての自記式質問紙調査を実施した。

母親の育児不安は、子ども総研式・母親育児支援質問紙スクリーニング試案版(日本子ども家庭総合研究紀要、第 47 集、2011)、父親の育児不安は、子ども総研式・父親育児支援質問紙スクリーニング版(日本子ども家庭総合研究紀要、第 48 集、2012)、親性は、育児期の親性尺度(大橋・浅野, 2010)を用いた。分析は SPSS Ver.24 for windows を使用した。

【結果】 1 親性と育児不安

- 1) 母親も父親も自身の親性が高い場合、自身の育児不安の 5 領域全てが低かった
- 2) 母親の親性は、父親の育児不安の 2 領域に負の相関があった
- 3) 父親の親性は、母親の育児不安の 4 領域に負の相関があった

2 話し合いと育児不安

- 1) 母親は出産前に「家事分担」について話し合うと、育児不安の領域Ⅳ「夫婦関係のあり方」の軽減に有意差があった。母親は出産前・後に「就業の継続」について話し合うと、領域Ⅱ「育児困難 タイプⅡ」：子どもへの「ネガティブな感情・攻撃・衝動性」の軽減に有意差があった。
- 2) 父親は出産前「家事分担」・「育児分担」・「就業の継続」、出産後「就業の継続」について自身が話し合ったと認識があれば、育児不安の領域Ⅳ「夫婦関係のあり方」の軽減に有意差があった。
- 3) 両親の話し合いの一致があった場合、母親の育児不安の軽減に有意差があり、父親については有意差がなかった。

【考察】 乳児期の子どもを育てる母親と父親の親性が高ければ、自身の育児不安が低くなり、母親と父親の親性が高い場合は、相互に育児不安を部分的に軽減できることから、親性と育児不安は関連があり、親性を高めると育児不安は軽減されると考える。

乳児期の子どもを育てる母親も父親も出産前・後に「家事分担」「育児分担」「就業の継続」について話し合うことで育児不安を軽減することができるが、父親も母親も夫婦関係に関する育児不安を軽減するためには、互いに話し合ったと認識を一致できるように、深く話し合うことが必要であると考えられる。

【結論】 1 乳児期の子どもを育てる母親・父親自身の親性が高いと、自身の育児不安は低くなる。

2 乳児期の子どもを育てる両親の親性の高さは、互いに育児不安の軽減に影響する。

3 出産前後に両親が「家事分担」「育児分担」「就業の継続」について話し合うことは、母親と父親の育児不安の軽減に繋がり、さらに、夫婦が認識を一致できるように深く話し合うことで、夫婦関係に関する育児不安を軽減できる。

key words : 乳児期の子どもを育てる両親、育児不安、親性、両親の話し合い